母は意志の強い人

松本猛さんに聞いた いわさきちひろの素顔

人々に親しまれ続ける美術館

一九九七年に開館した安曇野ちひろ美術館。初代館長を務めた松本猛さんは、いわさきちひろさんの作品を展示している。

松本さんによると、ちひろさんは、温厚な性格であまり怒鳴らなかった。しかし絵の批判を受けても自分が正しいと思えば絵の雰囲気を変えない意志の強さがあったという。

そして、松本さんが子供の頃、ちひろさんに桃太郎の絵を書いたメンコを作ってもらい、一緒にメンコ遊びをしたり、木登りをしたり遊んだという。

ちひろさんの作品には幼い子供が数多く描かれている。その中にはやはり、幼い頃の松本さんがモデルの絵もあるそうだ。ちひろさんは絵を描くときに色のバランスを重視しており、普段は合わせることが難しい色が合う時の喜びを感じながら描いていたという。

元ちひろ美術館館長松本猛さん
現在、娘さんともに原発をテーマにした絵本を制作中。3月11日までには出版する予定。

開館以来、毎年多くの観光客が訪れる安曇野ちひろ美術館。松本さんは、「来る人それぞれに違う楽しみ方があり、誰にでも楽しんでもらえるところが一番の魅力」と話していた。毎年夏休みには松川中の生徒が水彩技法体験と美術館案内のボランティアを行っている。スタッフの水谷さんは「卒業生の中からこのボランティアを支えてくれる人が増えていってくれれば」と話していた。

安曇野ちひろ美術館は昨年、入場者数が20万人を超え、今年開館一五周年を迎える。

ちひろが描いた赤ちゃん

「でんぐり返しをする赤ちゃん」

自分が赤ちゃんだった頃のアルバムを見ていますか。そんな時にちひろの描いたこの赤ちゃんを見て、こんなに自然な赤ちゃんの表情や動きを描けるのは、ちひろしかいないと思いませんか。周りでお父さんやお母さんが応援している声まで聞こえてきそうです。

ステンレスに吹き込まれる命

日本でただ一人 ステンレス彫刻家

自身の作品の上にのる大道さん。

松川村役場の新庁舎記念に鈴虫をかたどったステンレス製の彫刻が贈られた。彫刻を制作したのが、安曇野市にアトリエを構え、ステンレス彫刻を制作している中嶋大道さん（67）である。作品は、昆虫、動物などをモチーフとした大小様々なもので、見上げるような高さの作品の数々は、まるで自分が小さくなったような感覚になれる。

一九八〇年ごろからステンレス彫刻をはじめ、現在ステンレスを使った彫刻家は、日本中でただ一人という。ステンレス彫刻を始める前は、木彫りの彫刻を制作していたが、アトリエの骨組みの組み立てを目にしたとき、面白そうだと思い、挑戦したことがきっかけだという。中嶋さんは、「誰も見たことがない、人々が驚くようなものを作りたい」と語った。

中嶋さんの作品には、全国各地で見ることができ、個展も何度か開いている。

「これからの若者はみんなと同じことをしているようでは駄目」と熱く語る大道さん。

鈴虫の鳴き声と共に

村のマスコット

松川村のシンボル、鈴虫。これを村のPRに使えないかという気持ちからリン太、リンリンは生まれた。村興しの一環として生まれたリン太とリンリン。生みの親である戸谷勝次さんに、誕生までの道のりを聞いた。

昭和54年頃、松川の西原地区から神戸地区にかけての扇状地には鈴虫が多く生息していた。その鈴虫を観光協会が取り上げ、鈴虫を村のシンボルにしようという動きが広まり、その中で生まれたのが、リン太とリンリンである。リン太とリンリンは今ではすっかり定着しているご当地ゆるキャラのさきがけのようなもので、村内全体、そして村外に松川村が鈴虫の里だということを認知してもらうために誕生した。リン太、リンリンは元から今の形だったわけではなく、当時は麦藁帽子をかぶり、首に鈴がつき、頭のみのデザインでリン太だけだったという。これは、戸谷勝次さんの農園のキャラクターでこれを元にして胴体がつき、帽子がシルクハットになるなどして、現在の姿になった。

現在は、マンホールなどにもこのリン太が描かれている。

全国各地で活躍する福本夫妻

安曇野SKY工房

シルクスクリーン作家

福本さんの作品には猫がたくさん登場する。

松川村にある安曇野SKY版画工房は、十年前にできた。福本吉秀さん（57）と妻で作家名、伊藤陽さん（54）夫婦は、松川村に来る1十年前から大阪で版画制作を二十年営んでいた。松川に工房を開いた理由は、「乾燥していて版画に適している」からだという。

福本夫妻は、神戸や東京など全国各地に個展を開いている。去年の12月には、東京の吉祥寺で個展を開いた。

福本夫妻は、かわいらしいはがきから、人の目をひく美しい版画までつくる。一番高いものでは、20万円もするという。はがきは、寄って亭松川で200円から販売している。版画を作っていて、「スムーズにできると楽しいけど、悩むと何年間もかかってしまうことが大変」と語った。

福本さんの作品はどれもとても暖かみがあり、ご夫婦の仲の良さがよく表れている。